

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸スポーツ学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	検査・測定と評価		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期 月曜3限	教室名	501教室・鍼灸実習室・ATルーム
担 当 教 員	山下浩平・山根太治	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>アスレティックトレーナーとして、適切な評価プログラムをデザインし、実施、検証し、その結果をもとに改善策を立案遂行できることを目標とする。各部位ごとのみならず、全身の動作や体力要素についても学ぶ。関節可動域検査や徒手筋力検査法などのメディカルチェックやフィットネステストに必要な要素を講義で学び、実践を繰り返すことで体得する。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>1. 授業内課題 30% 2. 期末レポート 60% 3. 出席・平常点 10%</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>公認アスレティックトレーナー養成テキスト 第5巻「検査・測定と評価」</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>本科目で学び練習した内容は、授業外でも自己研鑽することで身につくものである。現場で通用するスキルを形成できるようトレーニングを重ねること。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>適切な評価のためには解剖学、外傷・障害、またトレーニング科学などさまざまな知識を結びつける必要がある。さらにメディカルチェックや応急手当、またアスレティックリハビリテーションと結びついてこそ現場で有用なものになることに留意すること。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 授業を 通じての 到達目標	アスレティックトレーナーの業務における評価の位置づけ、関係性を理解し、その流れを把握する。		教科書	当該範囲の事前学習	
	各コマに おける 授業予定	イントロダクション アスレティックトレーナーによる評価の目的、意義及び役割 機能評価のプロセス、機能評価に必要な検査測定、機能評価に基づく問題点の抽出				
第2回	講義 授業を 通じての 到達目標	評価で得られた情報をアスレティックリハビリテーションやコンディショニングにどのように活用するのか理解した上で、いくつかの例に従ってプログラムを立案する。		教科書	前回範囲の復習および 当該範囲の事前学習	
	各コマに おける 授業予定	機能評価にもとづくアスレティックリハビリテーションおよびコンディショニングの目標設定とプログラムの立案				
第3回	講義 授業を 通じての 到達目標	各種評価方法の意義を理解し、その活用法を考察する。		教科書	前回範囲の復習および 当該範囲の事前学習	
	各コマに おける 授業予定	姿勢、身体アライメント、筋萎縮の観察、計測の目的と意義およびその計測方法 関節弛緩性検査の目的と意義およびその計測方法				
第4回	講義 授業を 通じての 到達目標	各種評価法を実践する。		教科書 メジャー、スマート フォンカメラアプリ など	前回範囲の復習および 当該範囲の事前学習	
	各コマに おける 授業予定	姿勢、身体アライメント、筋萎縮の観察、計測の目的と意義およびその計測方法 関節弛緩性検査の目的と意義およびその計測方法				
第5回	講義 授業を 通じての 到達目標	自動及び他動ROM評価の意義を理解する。		教科書	前回範囲の復習、練習 および当該範囲の事前 学習	
	各コマに おける 授業予定	関節可動域検査の目的と意義およびその計測方法 関節可動域に影響を与える筋群のタイトネスの検査測定方法				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	筋のタイトネスも含めたROM制限因子について理解し、その原因を考察する。	教科書	前回範囲の復習および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	関節可動域検査の目的と意義およびその計測方法 関節可動域に影響を与える筋群のタイトネスの検査測定方法			
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	各関節の自動および他動ROM測定を実践する。	教科書 ゴニオメーター、 メジャーなど	前回範囲の復習および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	関節可動域検査の目的と意義およびその計測方法 関節可動域に影響を与える筋群のタイトネスの検査測定方法			
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	各関節の自動および他動ROM測定を実践する。	教科書 ゴニオメーター、 メジャーなど	前回範囲の復習、練習 および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	関節可動域検査の目的と意義およびその計測方法 関節可動域に影響を与える筋群のタイトネスの検査測定方法			
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	MMTの意義、活用法について理解する。また制限因子について考察する。	教科書	前回範囲の復習、練習 および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	徒手筋力検査の目的と意義(徒手筋力検査法)			
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	各関節における各運動方向のMMTを実践する。	教科書	前回範囲の復習および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	徒手筋力検査の目的と意義(徒手筋力検査法)			
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	各関節における各運動方向のMMTを実践する。	教科書	前回範囲の復習、練習 および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	徒手筋力検査の目的と意義(徒手筋力検査法)			
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	各関節における各運動方向のMMTを実践する。	教科書	前回範囲の復習、練習 および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	徒手筋力検査の目的と意義(徒手筋力検査法)			
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	握力系や背筋力系、またウエイトなどを用いた評価法の意義や活用法について理解する。	教科書	前回範囲の復習、練習 および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	機器を用いた筋力、筋パワーおよび筋持久力の検査測定の方法と意義およびその検査測定法			
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	握力計や背筋力計、またウエイト器具などを用いた評価法を実践する。	教科書 握力計、背筋力計、 ウエイトトレーニング器具	前回範囲の復習および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	機器を用いた筋力、筋パワーおよび筋持久力の検査測定の方法と意義およびその検査測定法			
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	最大酸素摂取量や血中乳酸値などを測定する意義と活用法を理解する。	教科書	前回範囲の復習、練習 および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	全身持久力の検査測定の方法と意義およびその検査測定法 まとめ			

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸スポーツ学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	検査・測定と評価		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期 月曜3限	教室名	501教室・鍼灸実習室・ATルーム
担 当 教 員	山下浩平・山根太治	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>アスレティックトレーナーとして、適切な評価プログラムをデザインし、実施、検証し、その結果をもとに改善策を立案遂行できることを目標とする。各部位ごとのみならず、全身の動作や体力要素についても学ぶ。関節可動域検査や徒手筋力検査法などのメディカルチェックやフィットネステストに必要な要素を講義で学び、実践を繰り返すことで体得する。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>1. 授業内課題 30% 2. 期末レポート 60% 3. 出席・平常点 10%</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>公認アスレティックトレーナー養成テキスト 第5巻「検査・測定と評価」</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>本科目で学び練習した内容は、授業外でも自己研鑽することで身につくものである。現場で通用するスキルを形成できるようトレーニングを重ねること。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>本科目で学び練習した内容は、授業外でも自己研鑽することで身につくものである。現場で通用するスキルを形成できるようトレーニングを重ねること。</p>						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	講義 実習 形式	授業を 通じての 到達目標	エルゴメーターを用いて全身持久力を測定する。	教科書 エルゴメーター	前回範囲の復習および 当該範囲の事前学習	
		各コマに おける 授業予定	全身持久力の検査測定の目的と意義およびその検査測定法			
第 17 回	講義 実習 形式	授業を 通じての 到達目標	敏捷性および協調性の定義を理解し、測定方法とその活用法を考察する。	教科書	前回範囲の復習、練習 および当該範囲の事前 学習	
		各コマに おける 授業予定	敏捷性および協調性の検査測定の目的と意義およびその検査測定法			
第 18 回	講義 実習 形式	授業を 通じての 到達目標	敏捷性および協調性測定を実践する。	教科書 全身反応測定器 など	前回範囲の復習および 当該範囲の事前学習	
		各コマに おける 授業予定	敏捷性および協調性の検査測定の目的と意義およびその検査測定法			
第 19 回	講義 実習 形式	授業を 通じての 到達目標	身体組成を評価する意義、また測定方法について理解する。	教科書	前回範囲の復習、練習 および当該範囲の事前 学習	
		各コマに おける 授業予定	身体組成の検査測定の目的と意義およびその検査測定法			
第 20 回	講義 実習 形式	授業を 通じての 到達目標	インピーダンス法やキャリパー法で体脂肪量を測定する。	教科書 体脂肪測定機能 付体重計、キャリ パーなど	前回範囲の復習および 当該範囲の事前学習	
		各コマに おける 授業予定	身体組成の検査測定の目的と意義およびその検査測定法			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	一般に行われている体力測定法の項目やその意義を理解する。		教科書	前回範囲の復習、練習および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	一般的な体力測定の検査測定の目的と意義およびその検査測定法			
第22回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	一般に行われている体力測定を実践する。		教科書	前回範囲の復習および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	一般的な体力測定の検査測定の目的と意義およびその検査測定法			
第23回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	歩行、走行、方向転換動作のあるべき姿と問題になりやすい要素について理解する。		教科書	前回範囲の復習、練習および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	評価におけるスポーツ動作の観察、分析の目的と意義 歩行動作、走動作、ストップ・方向転換動作			
第24回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	歩行、走行、方向転換動作のあるべき姿と問題になりやすい要素について理解する。		教科書	前回範囲の復習および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	評価におけるスポーツ動作の観察、分析の目的と意義 歩行動作、走動作、ストップ・方向転換動作			
第25回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	各種動作のあるべき姿と問題になりやすい要素について理解する。		教科書	前回範囲の復習および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	跳動作、投動作、あたり動作			
第26回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	各種動作のあるべき姿と問題になりやすい要素について理解する。		教科書	前回範囲の復習および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	跳動作、投動作、あたり動作			
第27回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	各種動作の評価を実践する。		教科書	前回範囲の復習および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	総合実技			
第28回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	各種動作の評価を実践する。		教科書	前回範囲の復習、練習および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	総合実技			
第29回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	本科目で習得した評価法を、シミュレーション形式で実践する。		教科書	前回範囲の復習、練習および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	まとめ			
第30回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	本科目で習得した評価法を、シミュレーション形式で実践する。		教科書	前回範囲の復習、練習および当該範囲の事前学習
	各コマにおける授業予定	まとめ			